



平成24年7月19日

動物実験手技の向上めざし技術講習会開催

<概要>

岡山大学自然生命科学研究支援センター動物資源部門は、日本実験動物技術者協会関西支部との共催で、7月28・29日、マウス・ラット上級技術講習会を開催する。大学や製薬会社などで動物を用いた試験・研究の現場に従事する技術者や研究者に正しい動物の取り扱いや実験手技を習得してもらうことで、動物が受ける苦痛を軽減するなど、近年強く求められてきている「動物福祉」の考え方にふまえた適正な動物実験の実施を図るとともに、医療イノベーションを支える人材を養成するものである。社会人教育・卒後教育に積極的に取り組むことも大学の大きな存在意義のひとつであるとの立場から、今後もこうした講習会を企画していく予定である。

<本文>

岡山大学自然生命科学研究支援センター動物資源部門は、日本実験動物技術者協会関西支部との共催で、7月28・29日、マウス・ラット上級技術講習会を開催します。この技術講習会は、全国の大学や製薬会社をはじめとする実験動物を用いた試験・研究の現場で実務に従事する技術者や研究者など35名を対象に、昨年、一昨年に続き本年も岡山大学医学部の実習室を会場に行われます。講師陣は日本実験動物協会認定の技術指導員8名をはじめ、実験動物1級・2級技術者など、動物資源部門のスタッフを含む総勢21名が指導にあたります。また実際に動物を用いた講習を始めるにあたっての導入教育を同部門の縦木勝巳准教授が担当し、実験技術だけでなく法令遵守や倫理面での考え方にも重点を置いて指導します。

動物の愛護および管理に関する法律では、生きた動物を用いて実験を行う上では、動物の苦痛を最小限度にすること、実験で犠牲になる動物の数を減らすこと、そして動物実験に代わる方法を検討すること（これらの英語の頭文字をとって「3R」と呼ばれている）が求められています。動物の取り扱いの正しい技術を身につけることは、動物の苦痛を可能な限り軽減するだけでなく、手技の違いによる実験結果のばらつきを少なくし、結果として実験に用いる動物の数を減少させることにも大きく貢献します。また正しい技術の習得による試験精度の確保は、革新的な新規医療技術（医療イノベーション）をヒトに適用するにあたって極めて重要です。

岡山大学の学内共同利用施設である動物資源部門は、学内の研究者に法令にのっとった適正な動物実験の環境を準備するだけでなく、学内外を問わず動物実験の現場で実務に携わっている技術者・研究者に向けてもこうした教育の場を提供することが自らの果たすべき社会的役割であると考え、今後も積極的に社会人教育・卒後教育の取り組みを進めていくこととしています。

<お問い合わせ先>

岡山大学自然生命科学研究支援
センター動物資源部門

氏名：矢田 範夫

電話番号：086-235-7445

FAX番号：086-235-7433

メール：yata-n@md.okayama-u.ac.jp